

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム(1F)		
所在地	可児市下恵土野林3005番地		
自己評価作成日	平成22年8月22日	評価結果市町村受理日	平成22年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2173100351&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療施設のため 体調についての相談が昼夜を問わずできるため 利用者・家族・職員共々安心して生活ができます。また 地域との交流も少しずつではあるが 拡がってきている。地元小学校2校・中学校4校・幼稚園など 世代を越えた交流の中で 利用者個々の力を発揮できるよう支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者は、地域の人々と交流を深め、支えられながら、「住み慣れた地域で、ほほ笑みのある穏やかな暮らし」を営んでいる。保育園児を始め、学生や各種ボランティア、近隣の人達と日常的に交流し、地域の一員となっている。運営者は医療法人であり、健康管理や重度化に向けた取り組みは、利用者・家族の安心につながっている。運営推進会議では、非常時の地域協力について話し合わせ、住民の協力が得られるなど、体制が強化されている。職員は、利用者の自立を支え、笑顔を決やさず、穏かなサービスを提供している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のケア会議にて話し合いを持つ中で一人一人の情報を交換しながら 利用者の思いを ケアに活かすことができるよう努力している	「住み慣れた地域の中で、ほほ笑みのある穏やかな暮らしを支えあう」ことを理念としている。理念は、ケア会議の中で振り返り、確認し、明るく穏かな暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常生活の中での散歩・買い物など 出かける機会もあり 挨拶を交わしたり 会話を楽しんだりしている。また 行事への参加 お誘いなど 地域へ出かけている	散歩途中での挨拶、隣人からは垣根越しに手作りの漬物やジャム等の差し入れがある。利用者手作りのおはぎや赤飯を返す等、日常的に付き合っている。地域とは、相互に行事参加し合い、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園児との交流・小学校の総合学習・中学校の職場体験など それぞれの場において理解して頂けるよう 取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事への取組みを報告するとともに 参加者全員からの アドバイスをサービスに活かしている。火災の件では 民生委員が近くに住んでいるため緊急時の協力を了解下さる	民生委員・利用者・家族・市の職員等が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、主な活動等を報告し、保育園児との交流内容について説明している。民生委員を通し、緊急時の協力を近隣の3名に依頼する等、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほほえみ便り・行事ごとの案内など 市・社会福祉協議会・民生委員・第三者委員に配布しグループホームの理解を求めるとともに 行事への参加においては 会話の中でアドバイスを下さる	運営推進会議や毎月の行事の案内、「ほほえみ便り」を、市に届けている。対応が困難な事例について細かく報告し、アドバイスを受ける等、理解や協力を得る取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内研修において 身近でありうる身体拘束を学んでいる。玄関・フロアの施錠は外しておりベルをつけているが 利用者は 自由に出入りが可能である	職員は、内部研修やケア会議等の中で「身体拘束を何故してはいけないのか」を学習し、正しく理解している。寄り添う介護への取り組みにより、拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修において 身近でありうる虐待について学んでいる。どんな小さなことも 自分自身に置き換え考えることで 意識ができていく		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム外研修へ参加するとともに ホーム内研修において理解を深めている。必要時は検討し活用できるよう支援したい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用者・家族の気持ちに寄り添うことを第一に考えながら説明をしている。また契約前に見学をして頂くよう配慮している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者へのアンケートを実施し 利用者の思いを汲み取ることで ケアに繋げている。また 家族の面会時には 積極的にコミュニケーションをとる中で 意見を聞き ケアに活かしている	家族の面会時やアンケートを通し、意見や要望を把握している。家族からは、サービス内容の説明が求められている。日常の様子を報告すると共に、サービス内容を説明し、家族の理解に繋げている。	家族は、表面上本音を言わないことが多く、隠れた意見の把握に課題がある。面会時や家族会の機会に、意見の言いやすい、関係づくりに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は個々に話し合う機会を設けるなど積極的に意見を取り入れている	代表者と個別対面の機会を設け意見を聞いている。利用者の介護度に応じた勤務体制に配慮して欲しいなど、の積極的な意見がある。職員からの意見・提案は、代表者・管理者で検討し、業務改善に反映される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々に話し合う機会を設ける中で 職員個々の 業務上の悩みなどを把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には 積極的に出かけ ケア会議にて研修報告をするなかで 全職員にて共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可児市グループホーム連絡会・岐阜県グループホーム協議会などの会議に参加し 情報交換・事例検討などをケアに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談時に 家族より 本人の習慣・職歴など情報収集することで 本人と話す上での安心材料とし 信頼関係ができるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時 家族が安心できるよう見学をして頂いたり 行事などの写真を見て頂くなかで どんなことでも相談してもらえるよう 信頼関係づくりの努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時には 短期間利用などのサービスを導入している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と本人が1つの家族となることができるよう 料理・裁縫・昔話など 分からない事は教えてもらいながら できる限り一緒におこなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時 家族との時間をゆったり過ごしていただくよう 時には 会話の橋渡しをしている。また アルバムを見ながら 近況報告をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	行きつけの美容院へ家族と出かけたり お盆・お彼岸などの墓参りや仏壇参りなど 本人が気にかけている時は家族に連絡するなど 支援している	職員と共に、馴染みの店へ買い物に行ったり、故郷を訪問し、馴染みの人達と合えるように支援している。また、行きつけの美容院や、墓参りなど家族と協力しながら、一人ひとりの思いを大切にした関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方・合わない方がいるが 日常的に会話を持ちながら 職員が間に入るなど工夫している。また 日々の利用者の様子に注意し情報を共有するなかで 関係が良好となるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても 生活環境支援の内容など 情報提供し 連携に心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆったりとした時間のなかで ゆっくりと会話を持つよう心掛け その中で得た 本人の思いを汲み取り 全職員で情報交換しながら共有している	利用者に寄り添い、落ち着いた気分の中で、話を聞いている。困難な人からは、表情や動きの中から思いを汲み取っている。一人ひとりの思いは、業務日誌に記録し、全職員で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中で 馴染みの関係を築きながら 情報の収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・申し送り表などで 一日の過ごし方や心身の状態を把握するとともに 当日の勤務者からの情報収集に努め 共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時には 日頃の様子を伝え 意見やアイデアを頂き ケア会議にて話し合い 介護計画に反映している	毎月のケア会議で、職員の、気づきやアイデアを取り入れ、本人・家族の意向を介護計画に反映させている。一人ひとりの心身の状態を常に把握し、現状に合った介護計画や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況・気づきなどを 申し送るとともに 介護記録に記載し ケア会議にて話し合い 情報の共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じ 通院の送迎をしている。また 本人の帰宅願望を伝え 帰宅されるなど 柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出初式・夏祭り・作品展・運動会・民踊など地域の行事に出かけるなど 楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する所に受診している。身体の状況によって 情報の提供・職員の同行など かかりつけ医との連携に努めている	法人の医師が、かかりつけ医となり、月2回の往診がある。以前からの、かかりつけ医や専門科医への受診は、家族の付き添いが基本になっている。それぞれの主治医とは、連携を密に取り、家族の都合や急な場合の受診は、職員が同行支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体が医療施設であるため どんな些細なことでも伝え相談し アドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関があり 入院先の担当医・支援相談員との連絡を取りながら 早期退院に結びつけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針において利用者・家族の思いを聞かせて頂き 母体の医療施設の指導のもとチームケアに取り組んでいる	家族には、早い段階から看取りの指針を説明し、希望を聞くと共に、状態の変化に応じ、その都度、話し合い、関係者で方針を共有している。終末期に向けて、協力医による往診や訪問看護等、チームでの支援体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内研修にて 緊急時対応について勉強するとともに マニュアルを見やすい所に整備している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て 避難・消火・通報訓練を定期的に行っている。緊急時の通報マニュアルを見やすいものへと作り直した。また 近隣の協力が得られるようお願いした	日勤帯、夜勤帯を想定し、消防署の協力による避難訓練を年2回実施している。民生委員を通して、近隣の3名が協力者として緊急時連絡網に加わる等、訓練への参加、非常時の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し その時の表情や様子に応じ さりげない声掛けやケアを心がけている	職員は、プライバシー保護マニュアルに基づいて学習し、「利用者の人格を尊重すること」を共有している。一人ひとりの利用者に合わせて、プライドを損ねない言葉掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望などを 日々の生活のなかで把握することで 自己決定がしやすくなるような言葉かけへとつなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いを大切に 居室にて過ごしたい方 居間にてテレビを見たい方など 自分のペースにて過ごして頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容院へ出かけたり 更衣時は本人に選んで頂けるような声掛けを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや盛り付け・湯のみや箸を並べて頂くなど 見守りや声かけを行っている。食後は 食器拭きなど一緒に行っている	パンかごはん、魚か肉等、メニューは利用者の好みに応じている。おせち料理、おはぎ等、職員と共に作り、調理の味付けを手伝っている。食事の時間には、心地よい音楽を流して、職員も一緒に味わいながら、美味しさや楽しさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご飯の大盛りの方・少しの方 とろみの必要な方刻みを希望されるなど 一人ひとりの好みや体調に合わせ 支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアの声掛けを行い 可能な限り自分で磨いて頂き 磨き残し口腔内の残渣物などを確認し支援している		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェックを行い 排泄パターンを知ることによって 声かけや誘導を行っている	常時、安心パンツの着用から、日中のみ布パンツやパットになった利用者がある。トイレが3ヶ所あり、プライバシーに配慮し、さりげなく声かけ誘導している。トイレで気持ちよく排泄できるように、タイミングよく促し、自立に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックを行い 水分の補給に努めるとともに朝一番の牛乳など 便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて 早く入りたい方・ゆっくりと最後に入りたい方など 急がせることなくゆったり入浴して頂けるよう 配慮している	基本的には、隔日の入浴であるが、希望があれば毎日の入浴にも応じている。順番や入浴時間等、利用者一人ひとりの好みに合わせて支援している。菖蒲湯、よもぎ湯等、入浴拒否者への対応策としても取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間 不眠であった方に対し声掛けにて 日中 休んで頂いたり 食後には 横になられるなど 一人ひとりの希望や状況に応じ 支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの既往歴や薬について ファイルにまとめてあり 職員がいつでも見られるようにしている。また 薬の把握により 体調変化時は 看護師への連絡がスムーズである		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で 出来ること・出来ないことの把握をしており 出来ないことに対し 職員がフォローするなど 喜びに変える努力をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調を考えながら 散歩に出かけている。また 本人が希望されるときは状況に応じ 出かけられるように努めている。今年度の目標として月1回の喫茶店への外出を掲げ 取り組んでいる	近くに散歩コースがあり、日常的に出かけている。買物や喫茶店へは、職員と同行している。普段行けない花見や自宅周辺等へは、家族と協力しながら支援している。	

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には 財布を持って頂き直接支払って頂くよう 見守りながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の際は 他者に配慮しながら使用して頂いている。また 年賀状など 家族・友人に出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど 使用後は汚れていないか確認しいつでも気持ちよく使用して頂けるように努めている。また 季節を感じて頂けるよう 玄関先の花壇の花の植え替えなど 参加して頂いている	リビングや廊下の壁には、共同作品や思い出の写真が掲示されている。食卓には、玄関前に咲いている季節の花を、さりげなく飾っている。思い出のソファが要所に設置され、畳のコーナーでは、腰を掛けて、利用者同士が談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファで テレビを見ながら過ごす方 畳の部屋にて作業する方など 思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた 使い慣れた物を持って来て頂くとともに 好きな写真を飾って頂くなど工夫をしている	どの居室にも介護用ベッドを設置し、持参品や購入した衣装ケース等が使いやすく配置されている。窓越しに田畑や近隣の家が見え、季節感や生活感が感じられ、落ち着いて過ごせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが出来る限り自立した生活が送れるよう 状況に応じ 職員と利用者が相談しながら 不安や混乱となる材料を取り除き出来ることを支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100351		
法人名	医療法人 純真会		
事業所名	ほほえみグループホーム(2F)		
所在地	可児市下恵土野林3005番地		
自己評価作成日	平成22年8月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に目につく所に掲げ、ケア会議・申し送りなどで、その都度ケアについて話し合いながら、実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩時など、地域の方から声をかけられ、挨拶や会話を交わすなどしている。施設行事の夏祭りや秋祭りには、地域の方達も参加して下さり交流が図られている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小中学生の総合学習授業、職場体験などの受け入れや、園児の訪問も隔月1回あり、交流を通して認知症の方への理解を深めて頂けるように取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や、家族にも参加していただき、率直な意見アドバイスを出していただき検討している。議事録も公開しサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「ほほえみだより」や通信を市の関係者(社協・民生委員)などにもお届けしている。施設の行事がある時は、ポスターなどの掲示にも協力頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性に配慮し、ドアのチャイムなどで出入りの確認は出来るようにして、玄関・2Fのドアは日中は施錠しないようにして見守りを行っている。身体拘束については、毎回ケア会議などで身体拘束をしないためのケアについての話し合いをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、ケア会議にて、自己研修を行い、不適切なケアはないかを確認し合っている		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケア会議にて、定期的に自己研修を行い、マニュアルを作成して、全職員が理解を深めるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約やケアに関する事業所の取り組みや考え方を説明し、納得頂いている。また、改定時には改定内容など細かく説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切にして、面会時に、意見・要望をお聞きするように努めている。ご意見箱の設置・あんしん介護パートナーの来訪・利用者アンケートの実施など、さまざまな意見を尊重して反映できるように努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議や日常の勤務の中で、職員が気になること意見、要望があれば、個別に話し合う機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場に頻繁に来ており、職員と個々に話し合う機会を設け、各自の思いを把握し、就業環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各自、勤務に負担なくいろいろな研修に参加する機会が設けられている。職員はお互いにスキルアップ出来るように、ケア会議などで研修報告を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可児市グループホーム連絡会・岐阜県グループホーム協議会などの会議に参加し、事例検討の勉強会をするなどの交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が新しい生活に早く馴染めるように、担当ケアマネから情報を得るとともに、事前面談などで本人の不安なことを話して頂けるような関係づくりの努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時には、雰囲気を見て頂きながら本人・家族の不安なことなどを率直に話して頂けるようゆっくり聞くことを大切にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、家族・本人の思いをとりいれた短期プランを作成導入して、安心納得していただくように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、台所仕事など一緒に出来る事は手伝って頂き、人生の先輩として敬意、良い関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の参加、かかりつけの病院・美容院への付き添いなどをお願いすることもあり、面会時には日々の様子をお伝えしている。利用者と家族のふれ合いを大切にともに支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出などで、利用者の馴染みの場所に出かけ、楽しんで頂いている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やレク・体操などの時間には、一人一人が楽しく過ごせるように会話を多く持ち、利用者同士が馴染みの関係を作る支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所される場合などは、転所先関係者に情報提供を行い、生活が変わることでの不安や混乱が生じないようにサービス提供者との連携に心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を1対1でゆっくり聞く機会を設け、本人の望まれることを把握するように努めている。情報は、記録・申し送りなどで共有している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前利用施設からの情報や、本人・家族との日々の会話の中で情報収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り表・介護記録などへの記入により、一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態を全職員が把握して、理解するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、家族の思いをお聞きしたり、ケア会議などで日頃の様子を話し合い、その人に合った計画を現状に即し、臨機応変に見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り表・連絡ノートを活用し、日々の様子やケアでの気づきなどの情報を職員が共有しケア会議などで検討している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に応じて、通院の送迎や、受診時に職員が同席し状態を説明するなど、柔軟な支援を行っている		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化センター・公民館などでの地域の催しものなどに、安全性を配慮しながら参加して頂き、地域の方達とふれ合う機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、本人・家族の希望される所に受診して頂いている。適切な医療が受けられるように、情報についてはかかりつけ医と連携している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護により、体調の変化には早い段階で、院長・訪問看護師に相談し、適切な指示が得られている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院関係者・家族と一緒に話し合う機会を持ち、早期退院に向けての連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	母体が医療施設で近いというメリットを活かし、職場職員の力量に合ったケアを支援して頂きながら家族・利用者にも随時希望を伺い、どこまでできるのかを説明している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応についてのマニュアルを作成し、ケア会議などで勉強会や、話し合いなどを行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署指導の避難訓練と、自主訓練を実施し、日勤帯と夜勤帯の二つの想定で行っている。近隣の方にも訓練参加や、非常時の協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についてのマニュアルを作成しケア会議などで勉強会を行っている。本人の気持ちを大切に、さりげない声かけや対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者に声をかけ、寄り添いながら言葉・表情・しぐさなどからもその方の思いや希望に気づくことが出来るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の気持ちを尊重して、さりげない声かけをしながら、一人ひとりのペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力して頂きながら、本人の馴染みの美容院へ出かけたり、その人らしいおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じるような献立を利用者とともに考えたり、調理・配膳・片付けなども一人ひとりが出来ることを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	減塩・刻み食・とろみを使用した食事など工夫し、食事量・体重の増減にも注意している。食事やおやつの時間以外にも、適宜、水分摂取を促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、本人の自立度に応じて、義歯の着脱・洗浄・口腔内の衛生管理を支援している		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、出来る限りトイレでの排泄を支援している。夜間も、トイレ誘導や、ポータブルトイレの使用など自立を図るための支援をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努めるとともに、毎朝のラジオ体操や、バナナジュース、ヨーグルトなど飲用し、便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の好みの時間・曜日・順番に入浴して頂けるように配慮している。また、入浴時には利用者のペースに合わせ、くつろいで入って頂けるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、夜間の安眠につながるようにレク・体操・散歩などで気分転換が図れるように努めている。また、体調を把握して、疲れがみられる時などは、居室にて休息を促したりもしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容については、個別にファイルして職員は情報の共有をしている。服薬は、手渡しをして服用を確認し、服薬のサインを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合わせ、外出・散歩・レク・縫物などをしていただき、その人らしさを発揮して頂く支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候・体調を考慮しながら、出来る限り散歩にお誘いしている。また、個別外出や、家族会として家族とともに花見外出など外出の機会を作っている		

岐阜県 ほほえみグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、自分でお金を一部管理し、散歩時などに買い物を楽しまれる方もみえる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望に添って支援している。年賀状や暑中見舞いは、毎年欠かさず家族に出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせ、月毎に利用者とともに折り紙などで作った壁飾りや、カレンダーを居間に展示して楽しんで頂いている。ソファや畳スペースなどもあり家庭的な雰囲気をつくろいでいただいている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファに座り、気の合った方同士談笑されたり、畳スペースで新聞を読まれたり休憩されたり、その人に合った場所で思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、馴染みの物を持って来られたり、家族の写真や手紙を飾られたりして、本人が落ち着いて過ごすことが出来ている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全に配慮し、自立した生活が出来るように、手すりや、居室・トイレのコールを活用して頂いている		